

防災まちづくり計画

■地区の成り立ちと経緯

井土ヶ谷上町第一町内会地区は、戦前から市街化が進みました。かつては花街でもあり、町内会館の建物は、見番として使われていたもので、地区の歴史を語るもののひとつです。一方で、昔からの道路等の基盤のままで宅地化が進行したため、緊急車両の通行をはじめとして、防災の観点からの課題の多い地区となっています。

井土ヶ谷上町第一町内会では、平成26年から勉強会を立ち上げ、防災まちづくりの検討を進めるとともに、「通り抜け通路の確保」や「スタンドパイプの配備」などの成果を上げてきました。

この防災まちづくり計画は、当地区の防災まちづくりの考えやプロジェクトを取りまとめ、町内会を中心とした地域住民、事業者、行政、などが協力しながら、共通の目標実現に向けて取り組んでいくためのものです。

■地区の課題と目標・方針

当地区は、密集した木造家屋や、幅員の狭い路地や行き止まりの路地、急傾斜地に囲まれたエリアなどがあり、地震等の大規模災害時に大きな被害が出る恐れがあります。

「井土ヶ谷上町第一町内会地区 防災まちづくり計画」(以下、「本計画」という。)では、地震をはじめとした災害時の被害を少しでも減らしていくために、5つの方針にもとづき、8つのプロジェクトを実施していきます。これらの防災に関する取組を通じて、「いろいろな世代の人が安心して、末永く、コミュニケーション豊かに暮らすことのできるまち」を目指します。

目標

井土ヶ谷上町第一町内会地区では、防災まちづくりの取組を通じていろいろな世代の人が安心して、末永く、コミュニケーション豊かに暮らすことのできるまちを目指します。

5つの方針

1. 災害時の活動拠点の拡充 (町内会館、住吉神社、井土ヶ谷上町公園等)
2. 地域の自助・共助による災害対応力の強化
3. 災害時の消火活動や避難に重要な道路・路地の改善
4. 火を出さない取組の徹底
5. 防災まちづくりに関する活発な情報発信

■取組の期間等

2019年度(策定予定年度)から2023年度末までの5年間を計画の第1期として、各プロジェクトごとに目標等を示します。

■横浜市地域まちづくり推進条例に基づく認定について

横浜市地域まちづくり推進条例では、地域のまちづくり組織が地域住民等の理解や支持を得ながらとりまとめた計画を、地域まちづくりプランとして認定することができます。

本計画は、市の条例に基づく認定を受け、井土ヶ谷上町第一町内会が地域まちづくり組織として、地権者の方々、事業者の方々、市と共に各事業を推進していきます。

横浜市地域まちづくり推進条例についてはこちら

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/suishin/chiiachimachizukuri/>

■プロジェクト一覧

※建物の建て替え等の際は、これらのプロジェクトに協力可能か、検討を行ってください。

プロジェクト①

地域資源である町内会館を「活かす」

5年間の
目標
・会館の改修実施
・拠点としての機能強化

現状 ・町内会館は、昭和12年に見番として建設された建物で、横浜市の歴史的建造物にも認定されている地域のシンボルである。

- 取組**
1. 町内会館を地域の居場所として活用していくことに加え、災害時の活動拠点としても使えるように整備・活用していく。
 2. 耐震性や耐火・防火性能の向上と、歴史的景観の向上の両立を目指す。



現在の町内会館



復元イメージ

プロジェクト②

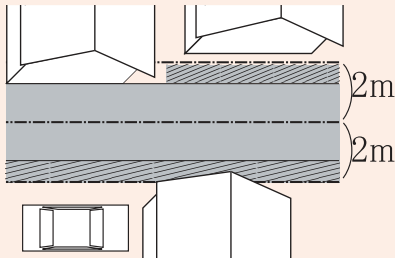
地区の重要なみちの安全性強化

5年間の
目標
・会館前の道路の整備
・道路を使った防災訓練の実施
・丘周辺の階段等の安全確保の検討

【町内会館周辺のみち】

課題 ・地区の拠点である町内会館が災害時にも機能し、その他の活動拠点（公園、神社、学校等）や周辺の宅地との行き来も円滑にできる必要がある。

- 取組**
1. 地域による初期消火が行えるように、器具の配備や消火活動スペース等の確保と、それらを活用した訓練を実施する。
 2. 倒壊物で通行人のけがや道路閉塞が起きないように、ブロック塀を軽量フェンスや生垣にするよう、所有者に働きかける。
 3. セットバック*した部分を道路として着実に整備するよう、市と連携し、所有者に働きかける。



*セットバックとは：現在の建物の前の道路幅が4m未満の場合、建て替えるときは道路の中心から2m建物を後退（セットバック）する必要があります。

【丘周辺のみち】

課題 ・丘の上の地区は、車両が通行可能な道路がひとつしかないため、避難には階段等を利用することも考えられる。

取組 ・急な階段や、坂道があるため、災害時でも安全に避難できるような改善の検討を進める。

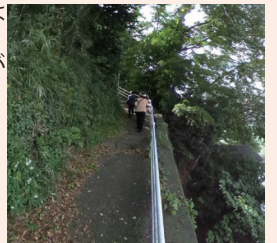
【狭あい道路整備促進路線等】

- 取組**
1. 市の指定する狭あい道路整備促進路線についても、市と連携し、円滑に整備が行われるよう、地権者等への働きかけを行う。
 2. 狭あい道路ではセットバックした部分に物を置かないよう、所有者等に働きかけていく。



←建物や塀は後退済だがL型側溝等が後退していない道

→丘の上に通じる階段



プロジェクト③

防災設備等の配備や利活用

5年間の
目標
・防災設備の配備計画策定

課題 ・災害時は住民による初期消火が有効である。また、災害後の断水時には飲料水だけでなく、生活用水等の水の確保が必要である。

- 取組**
1. 道路にある消火栓に簡単につなぐことができ、地域住民による初期消火が可能になる、「スタンドパイプ」や防災無線などの防災設備を計画的に配備する。
 2. 井戸や雨水タンクを災害時にも使えるように、所有者に協力を得る。必要に応じて発動機なども準備し、災害時にも水を使えるようにする。
 3. 防災訓練を各路地単位で行うなど、多くの人が防災設備を使えるような取組を進める。



町内会で配備したスタンドパイプ式初期消火箱

道路にある消火栓に簡単につなぐことができ、地域住民による初期消火が可能になる、「スタンドパイプ」やホース等が収納されている。



防災チェックのまち歩きで、地区内の井戸を確認している様子



町内会で実施している防災訓練の様子

プロジェクト④

いっとき避難場所や災害時の活動拠点の確保・強化

- 5年間の
目 標
- ・サイン表示の改善
 - ・新たないっとき避難場所の検討
 - ・防災訓練実施

課題 ・災害時に地区住民がまず集まる「いっとき避難場所」や活動拠点となる空地が不足している。

- 取組**
1. 地区内の駐車場や空き地などの「いっとき避難場所」指定や、防災広場としての整備により、災害時の活動拠点を確保・強化する。
 2. 住吉神社や井土ヶ谷上町公園などの既存の「いっとき避難場所」についても、わかりやすいサインの設置や災害時の活動拠点としての機能強化を図る。
 3. かまどベンチ、災害用トイレ、防災倉庫のような災害時に使える資材を導入し、それらを活用した「楽しい防災訓練」の取組を進める。



いっとき避難場所のサイン設置の例
(磯子区内)



災害時にかまどになる「かまどベンチ」の例

プロジェクト⑤

行き止まりの路地の安全性向上

- 5年間の
目 標
- ・各路地で改善策を実施
 - ・路地毎の防災訓練を実施

課題 ・地区内には行き止まりの路地が多く存在する。

- 取組**
1. 通り抜け通路などを確保することで、2方向以上の避難ができるようにする。
 2. 路地単位で検討を行うとともに、路地毎の防災訓練なども実施していく。



町内会で行き止まりの路地に設置した通り抜け通路の例

プロジェクト⑥

丘の上の安全性と災害対応力強化

- 5年間の
目 標
- ・各路地で改善策を実施
 - ・路地毎の防災訓練を実施

課題 ・丘の上の地区は、車両通行可能な道がひとつしかなく、大きな袋小路となっているため、丘の上の住民の「自助・共助」による防災力、災害対応力の強化を進める。

- 取組**
1. 避難や消火等のための設備・資材の配備やそれらを使った訓練を実施する。
 2. 周辺住民による意見交換会や検討会も進め、コミュニティの強化や避難経路の確保（プロジェクト②など）などの取組も進めていく。



丘の上の地区の階段状の道路

プロジェクト⑦

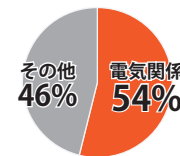
火を出さない、火を広げないための取組の推進

- 5年間の
目 標
- ・感震ブレーカーの普及率 20%UP!

課題 ・地震の揺れを感知して電気のブレーカーを落とす「感震ブレーカー」の設置率は3割弱となっている。

・木造の住宅が密集し、連なった市街地となっている。

- 取組**
1. 感震ブレーカーの共同購入により、地区住民に安く提供したり、設置をルール化することなども必要に応じて検討していく。
 2. 建物の建て替えの際にも感震ブレーカーの導入や建物の不燃化を、地区住民に働きかけていく。



東日本大震災における火災の発生原因

※日本火災学会誌「2011年東日本大震災火災等調査報告書」より作成



感震ブレーカーの設置例

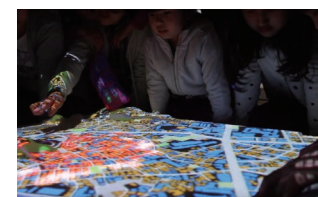
プロジェクト⑧

防災まちづくりや自助・共助の力を高める情報の発信

- 5年間の
目 標
- ・定期的にニュースを発行

課題 ・災害発生直後は公的支援が難しいため、自助・共助の力を高める必要がある。

- 取組**
1. ニュースの回覧・配布・掲示やWEB、イベント等で、防災まちづくりに関する情報、事業への協力・参画の呼びかけ、自助・共助の力を高める情報などを発信して、住民の関心を高める取組を進める。
 2. 既存の掲示板の活用や新たな掲示板の設置、掲示板の支柱等への防災関連のサインの設置、防災マップの配布などにより、災害時の避難や消火活動などに役立つ情報発信を行う。














井土ヶ谷の地形模型に延焼シミュレーションなどのデータを投影したイベント実施の例

井土ヶ谷上町第一町内会地区

■防災まちづくり方針図

各プロジェクトの内容は裏面「プロジェクト一覧」をご覧ください。

-  地区の活動拠点としての町内会館の整備・活用
-  公道 私道
-  地区の重要なみち
-  狭あい道路整備促進路線(横浜市指定)【既存】
-  初期消火箱・スタンドパイプ等(初期消火用ホース 40m)【既存】
-  まち歩きで発見した井戸【既存】
-  災害時の活動拠点となるいっとき避難場所や公園等【既存】
-  まち歩きで発見した主な駐車場・空地等【現況】
-  行き止まり路地や丘の上の地区の取組み推進の単位
-  行き止まりの路地【現況】
-  通り抜け通路【設置済】

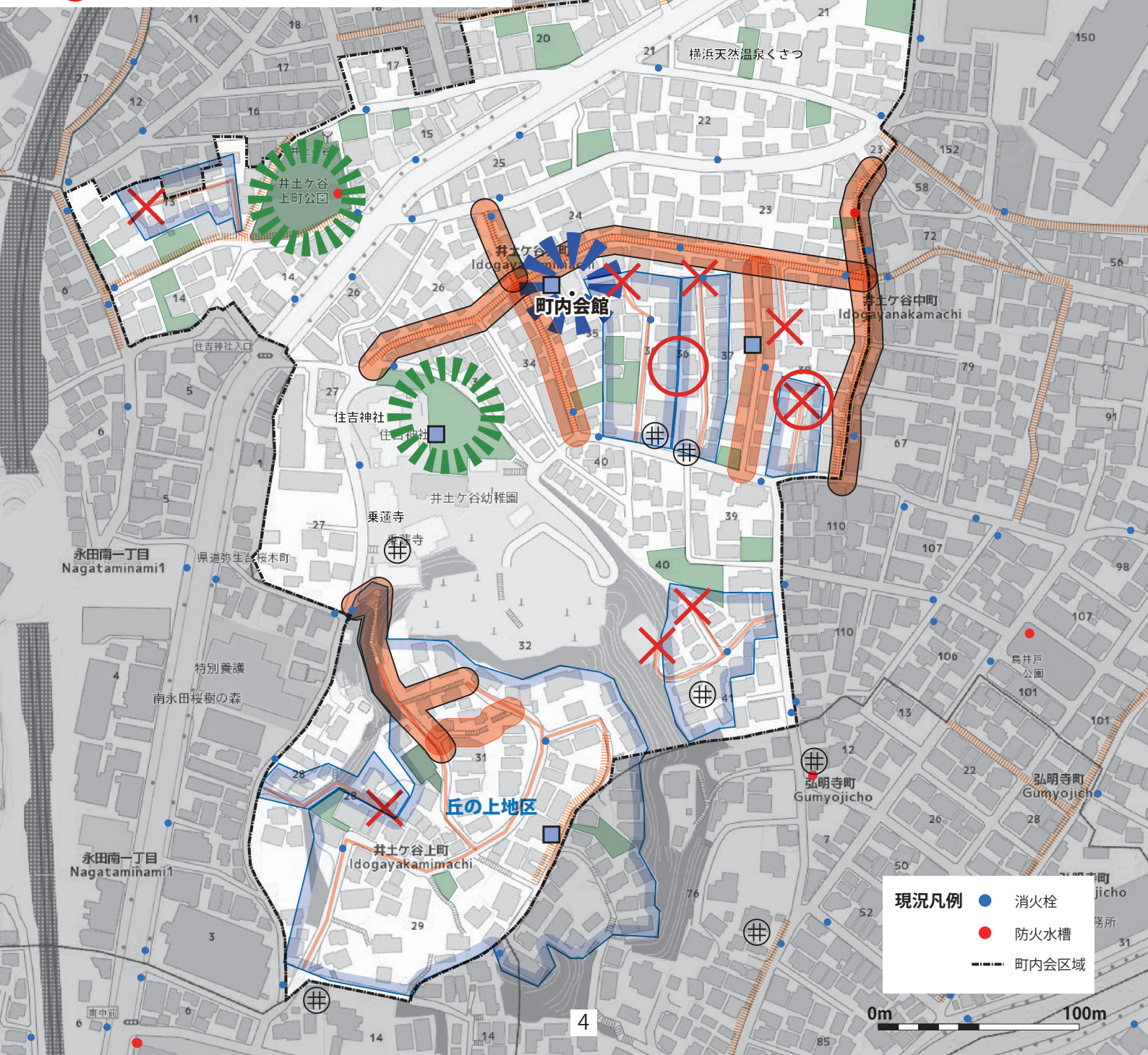
プロジェクト ①

プロジェクト ② 関連

プロジェクト ③ 関連

プロジェクト ④ 関連

プロジェクト ⑤ ⑥ 関連



現況凡例

-  消火栓
-  防火水槽
-  町内会区域